

令和 2 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ イイツカエリト
氏名 飯塚 恵理人

研究期間 令和 2 年度

研究課題名 東海地域能楽資料の収集・整理とアーカイブ化

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	飯塚恵理人	文化情報学部	教授
研究分担者	三木邦弘	現代マネジメント学部	准教授
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

江戸中期以降の東海地域では、尾張藩領内のみならず大垣藩や津の藤堂家などが盛んに能を催していた。また伊勢地域では、神宮の御師や鳥羽賀多神社の氏子達が祭礼などで能を行っていた。その結果、藩の御用商人や社家・庄屋階層へ謡曲が広まっていった。彼らは祭礼の社中では山車の囃子方を担当することが多く、これが名古屋祭や半田亀崎・岐阜伊奈波神社の祭礼山車囃子に能楽を取り入れたものが多い理由だと考えられる。しかしその浸透度には不明な点が多い。本研究では江戸期から続く祭礼能の社中資料を整理・撮影してアーカイブ化し、東海地域の能楽維持システムをこれらから明らかにすることを目的とする。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

岐阜伊奈波神社の山車囃子を指導なさっている能楽小鼓方後藤孝一郎師所蔵の、山車囃子を収録したオープンリールテープをデジタル化し、能楽囃子や現行の山車囃子と比較、その変化を検証する。これによって祭囃子が能楽囃子をどのように受容したかを「音」から考察する。また比較のために現行の謡も収録し、公開配信する。

祭礼能については文書が各地の神社、関係者宅、図書館等の公共施設に残っていることがある。事前調査で大垣藩の祭礼能に関する記述が含まれる文書が大垣市立図書館に所蔵されていることが分かったので、閲覧・撮影・翻刻の許可が得られれば赴いて入手する。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

後藤孝一郎師所蔵の山車囃子オープンリールテープをデジタル化した。これは隣接著作権が終了してから公開する予定である。後藤師にはその他に近年の伊奈波神社安宅車の囃子の稽古から本番までの映像も御提供いただいた。個人が判別できる映像部分などを編集した上で、保存会の方の許可が頂ければ研究室ホームページより「能楽囃子を取り入れた山車囃子の伝承」例として配信したいと考えている。2021年2月に、観世流シテ方西村高夫師による《鶴》《鞍馬天狗》の謡を文化情報学部和室で録音した。故岩田豊治氏録音の謡曲オープンリールテープもデジタル化した。これらの謝金、デジタル化報酬などに本研究費を用いた。

新型肺炎流行に伴う公共図書館の臨時閉館により、出張調査は実質的に8月から行った。大垣市立図書館の郷土資料室に問い合わせ、下記の文書の存在を確認、8月と9月の2回、閲覧と撮影を行った。

- ・『大垣市立図書館郷土資料目録第7集 家分文書 山下家文書』
- ・『大垣市立図書館郷土資料目録第10集 家分文書 戸田縫殿家文書』
- ・『大垣市立図書館郷土資料目録第18集 家分文書 戸田縫殿家文書』
- ・『大垣市立図書館郷土資料目録第34集 家分文書 吉田家文書』

これらには近世中期の京観世の岩井家から大垣藩の御用商人層へ出した免状、謡会に関する書簡、大垣祭の祭礼能の番組・役分担等などが載っており、現在、整理・翻刻を行っている。またこれに関連する文書として、名古屋市蓬左文庫所蔵の文化・寛政年間の江戸城謡初における尾張藩と藩主の関わりについての文書を翻刻した。これらの文書整理等に本研究費を用いた。

コロナ流行により多くの祭礼能やその稽古が中止となり、現地調査が出来なくなったため当初の研究計画は大きな変更を余儀なくされた。上記の活動に本研究費を使わせて頂き感謝しているが、コロナ禍が収束した暁には鳥羽市や伊勢市、新城市など本来予定していた能楽拠点調査にも赴く予定である。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①祭礼能	②山車囃子	③能楽	④能楽囃子
⑤大垣	⑥尾張藩	⑦謡初	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

上述のうち大垣市立図書館所蔵の文書については整理・翻刻が済み次第、紀要等に資料紹介する予定である。文化・寛政年間の江戸城謡初における尾張藩と藩主の関わりについては、飯塚恵理人が単著で論文にまとめ、名古屋芸能文化会の「名古屋芸能文化」第30号に投稿し、現在校正・印刷中である。西村高夫師による《鶴》《鞍馬天狗》の謡は、すでに飯塚恵理人の研究室ホームページより配信を始めているが、故岩田豊治氏録音の謡曲オープンリールテープは、隣接著作権が消滅する6年後に研究室ホームページより配信する予定である。